

直取引出版社の挑戦

～ディスカヴァーが切り拓く電子書籍の新時代～

2023年11月24日

自己紹介

現在：パブリッシングカンパニー 制作管理 プロフェッショナル

これまでに携わってきた業務

- ・ 編集者として入社
- ・ 電子書籍の製作・アプリ開発・ECストア開発等に関わる
- ・ 電子書籍の印税計算等のデータ作成
- ・ 直取引販売管理システムの開発・リプレース・クラウド化
- ・ 出版倉庫の移転・新規連携構築（現在の京葉様・河出様体制の確立）
- ・ sbookやブックインタラクティブなど受注サイトの連携構築や運用
- ・ 書誌データやPOSデータに関するデータ運用 など

A large version of the Discover logo, centered on the page.

ディスカヴァー・トゥエンティワン
自社紹介

会社概要



会社名	株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン
主たる事業内容	書籍出版事業
創立	1985年4月1日
代表取締役	伊藤守
取締役社長	谷口奈緒美
従業員	110名
取引書店数	常設直取引店約5000店
資本金	2000万円
出版社コード	924751 88759 7993
出版点数	約3000点（2023年10月現在）



Mission

21世紀の
新しい価値基準を提案し
人と組織の可能性を拓く

Value

視点を変える
明日を変える

Dis + Cover = 覆いはずす

視点を変えて、覆いを外し

それまで気付かれずに在ったものを発見する。

Discoverという社名そのものに
わたしたちのミッション、バリュー、ビジョン
すべてが表されています。

すなわち、

21世紀の新しい価値基準を提案し、
人と組織の可能性を拓く

というミッションのもと、

視点を変える 明日を変える
という価値を提供していくことです。

まだ気づかれていない
リソースの発掘

ディスカヴァーの商品は
いつもどこか新しい

世界中に、組織に、個人の中に隠れたリソース。そうした、まだ見つかっていない隠れた価値・思考・スキル、あるいは魅力を、ディスカヴァーは、35年間培ってきた書籍出版事業を基盤に、その社名の通り発見し、編集し、届けていくことができます。

コンフォート
デザイン

「デザイン」のあくなき追求が
選ばれ続ける理由

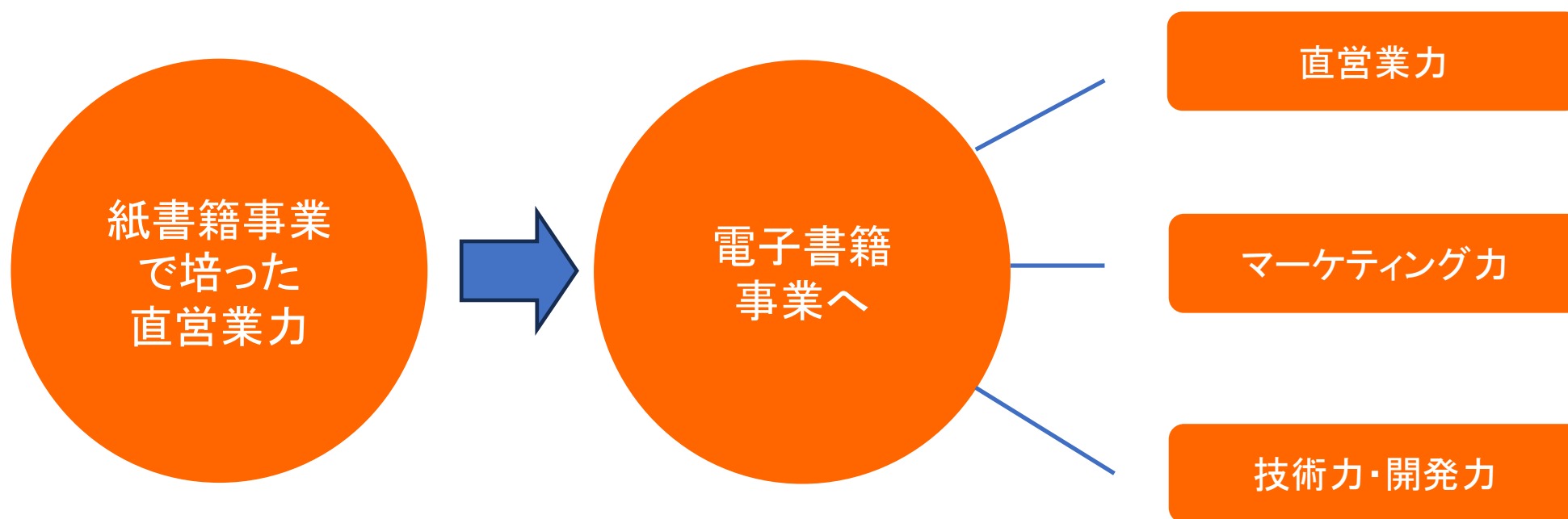
ディスカヴァーの商品デザインは、それに触れたお客様のハートと行動をより強く動かします。それは「述べられるセンテンス」と「パッケージ」が一体となった商品だから。その商品の価値や魅力を引き出す「本当に最適状態とは何か」を追求しているからです。

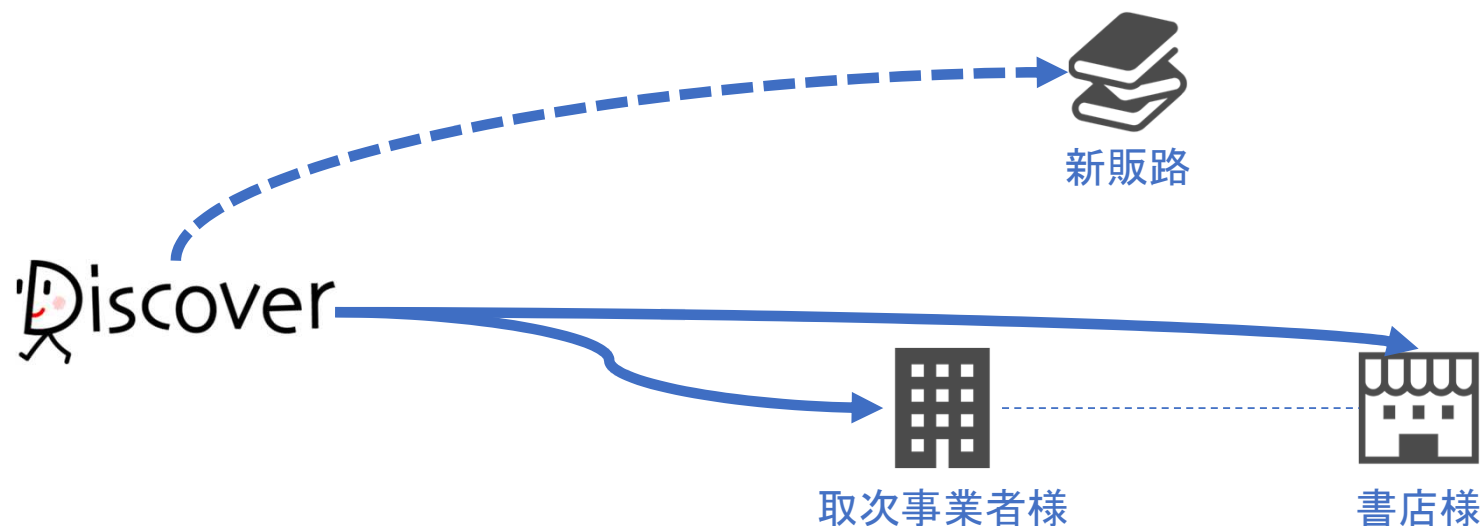
1on1
コミュニケーション

対話の中から
新しい価値を生み出す

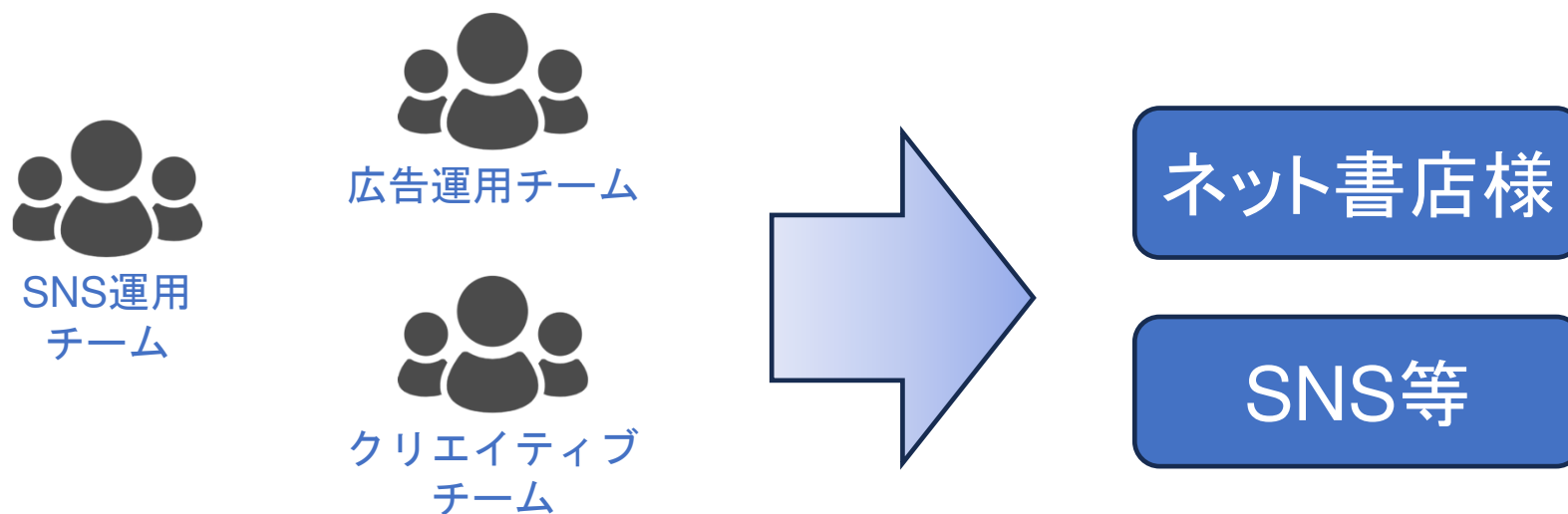
1対1の、人と人とのコミュニケーションを何よりも大事にし、書籍、そして営業活動を通じた、すべてのお客様との、双方向の対話・コミュニケーションこそが、人とハートを動かす原点であり、その対話の中から新しい価値が生まれると常に考え、すべての事業でそれを体現しています。

ディスカヴァー・トゥエンティワン
電子書籍事業

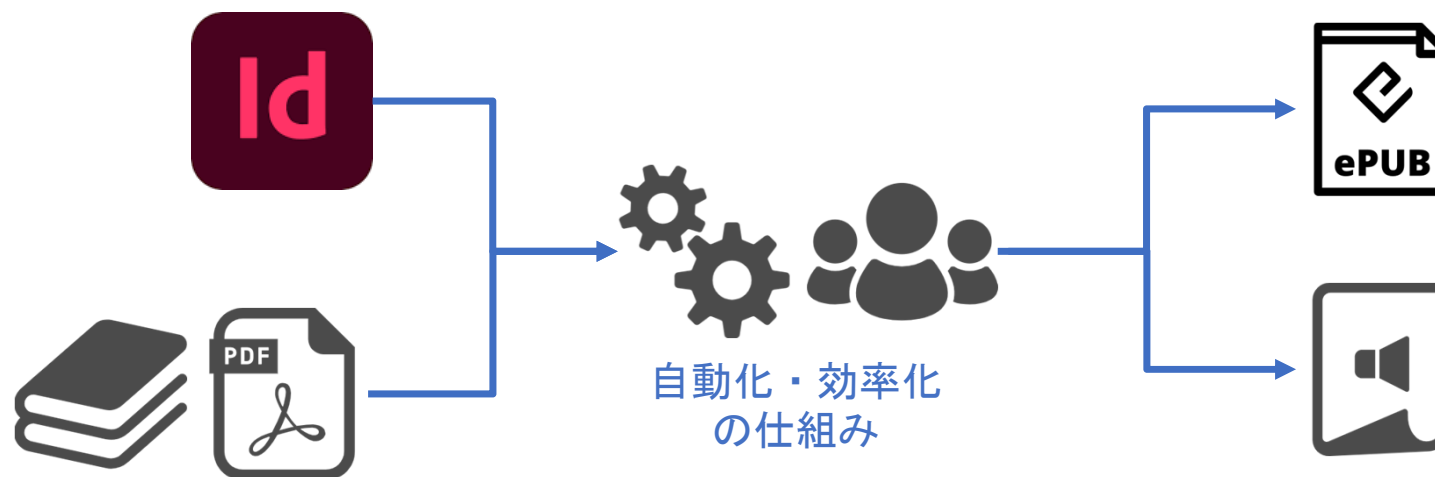




- ① 取次事業者様・書店様への直営業
- ② 各書店様との直接セール交渉等
- ③ 新しい販路の開拓と挑戦



- ① Amazon A+、動画広告の自社制作
- ② 各SNS広告の自社主導による運用
- ③ 専門チームによる分析と運用の実施



- ①新刊、全点のサイマル配信実現
- ②底本からのOCRによる電子書籍化
- ③オーディオブック300点以上刊行

※オーディオブックの点数は配信会社様の制作と自社制作の合計です。audiobook.jpでの販売数をもとにしています。

弊社の規模であっても
すべて自社でコントロールすることで
激しい時流の変化に対応する能力を得ています

ここからはどうやって実現してきたか
過去の取り組み
そして、いまを支える仕組みをご紹介します

ディスカヴァーが
これまでに挑戦してきた
電子書籍への取り組みは？

ディスカヴァーの電子書籍への取り組み①

2009年 ディスカヴァーデジタルブックストアをオープン

2010年 『電子書籍の衝撃』（佐々木俊尚・著）を紙の本と電子書籍同時刊行
写真集アプリ「STYLE from TOKYO」を発売

2011年 ディスカヴァーデジタルブックストアを新WEBサイトに統合

2014年 電子書籍の提供方法を「EPUBダウンロード方式」に変更。

外部電子書籍ストアが閉鎖時の購入済書籍の無料ダウンロード補償開始

ディスカヴァーの電子書籍への取り組み①

2015年 小説投稿サイト「novelabo」オープン

2020年 電子書籍の新レーベル「ディスカヴァーebook選書」スタート

社内コンテンツマネジメントシステム「CMDB」自社開発

自社内での電子書籍制作ワークフロー整備開始

2021年 読書体験の“つぎ”を拓く電子書籍レーベル「Discover Next D」スタート

2022年 社内電子印税計算システム「Factory」を自社開発

2009年12月 ディスカヴァーデジタルブックストア（当時のリリースより）

■Discover Digital Bookの特徴

Discover Digital Bookでは、すでに印刷物として刊行している書籍を一挙に20冊、デジタル書籍として配信を開始。従来のデジタル書籍では、PCのみ、もしくはiPhone/ iPod touchのみで閲覧可能なものがほとんどでしたが、株式会社ボイジャー（本社：東京都渋谷区、代表取締役：萩野正昭）と株式会社セルシス（本社：東京と新宿区、代表取締役社長野崎慎也）が共同開発した「ネット書店型iPhoneモデル」を用いることによって、PCとiphone/ iPod touchの両方にダウンロードすることができます。



2010年4月 電子書籍同時発売キャンペーン 「110円 販売キャンペーン」を実施。

サーバーが処理しきれないほどの注文が殺到。
お客様には申し訳なかったのですが、
電子書籍への期待の高まりなどを実感したできごと。

先例にとらわれない
価格の挑戦

2010年 iPad版電子写真集『STYLE from TOKYO 2010S/S for iPad』を発売



株式会社ユニークと共同開発したiPhone/iPad用アプリ
テンプレート

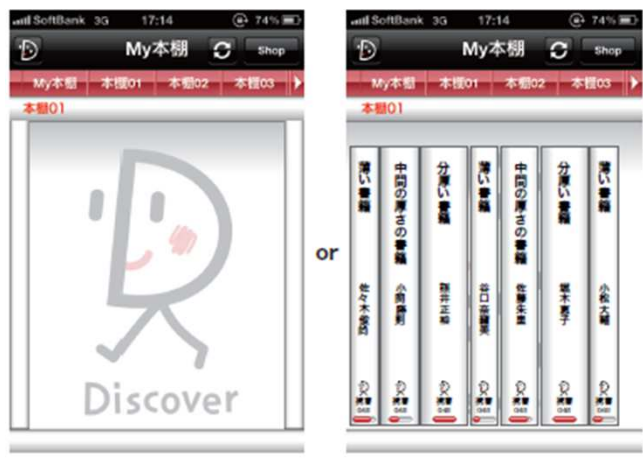
「Discover Visual Reader」を使用したアプリの第1弾発売。

→「高島易断」「ルーヴル美術館 木村泰司の絵画の読み方」などをその後に発売。

2010年 iPad発売 → アプリでの可能性に挑戦。

新しい販路への挑戦

2011年 ディスカヴァーデジタルブックストアを新WEBサイトに統合



この時、サイトリニューアルと同時に、ePUBのビューアアプリを共同開発していました。

2011年は、ePub3.0の仕様が発表された年でもあります。

appleのiOSのアップデートに伴うアプリケーションのアップグレードが負担に。

2014年 電子書籍の提供方法を「EPUBダウンロード方式」に変更。

購入した電子書籍のePUBをサイトからダウンロードし、それぞれ好きなビューアで読んでいただく方式へ。

リフローのテキストであるePUBをダウンロードできるのは当時画期的。

2015年 小説投稿サイト「NOBELABO」オープン

NOVELABO、現在は、他社様へ事業継承しています。



「他のユーザーによる二次創作を許諾することを前提に投稿していただくことで、すべての投稿作品の二次創作を可能としました。」（当時のリリースより）

→作品の広がりを推進するプラットフォームとしての挑戦でした。

→いくつかの作品を電子書籍で販売いたしました

挑戦の歴史



- 2020年 電子書籍の新レーベル「ディスカヴァーebook選書」スタート
- 2021年 読書体験の“つぎ”を拓く
電子書籍レーベル「Discover Next D」スタート



2022年1月 ebook選書の発売点数が300点を突破。

過去に様々な出版社から発行され、いまだ電子書籍化されていない書籍を、出版社・著者のご許諾・ご協力のもと電子書籍化しているのが、ディスカヴァーebook選書です。

ディスカヴァーの電子書籍への挑戦の歴史

①前例にとらわれない挑戦

②自社開発によるノウハウの蓄積

③課題解決力の蓄積

ディスカヴァーが
蓄積してきた
課題解決力とは？

電子書籍の点数増加や納品先増加に伴う社内の課題解決

- ①電子書籍の印税計算システム化
- ②電子書籍制作の効率化
- ③広告運用のノウハウとクリエイティブ

①電子書籍の印税計算システム化

印税計算システムを自社開発

これまでの状況・課題

- ・ 管理不十分の書誌情報をExcelで管理
- ・ 形式の異なる売上データを手で整える
- ・ 計算結果を経理Tが目視確認後支払い実施

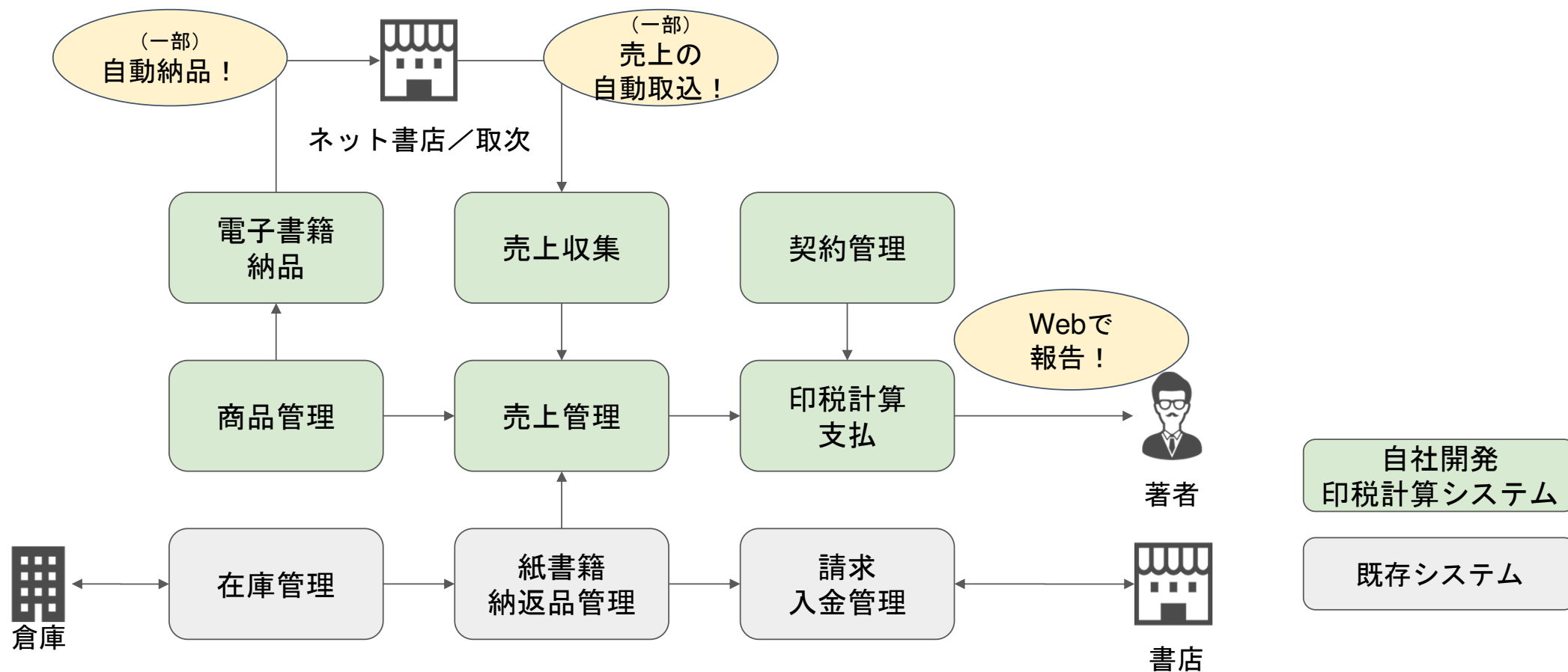


印税計算システムにより

- ・ 書誌情報、契約情報の一元管理
- ・ 売上データの自動取込機能でミス軽減
- ・ 印税支払い業務の運用コスト低減

契約条件の管理一元化、実績データの登録簡略化、計算の生産性向上

①電子書籍の印税計算システム化



②電子書籍制作の効率化

自社内での電子書籍制作ワークフローの整備＋自動化

これまでの状況・課題

- ・慣れた担当者にしかできない作業
- ・電子書籍の制作にかかる時間の増加
- ・契約から校正まで複雑なフロー



ワークフローの整備＋自動化により

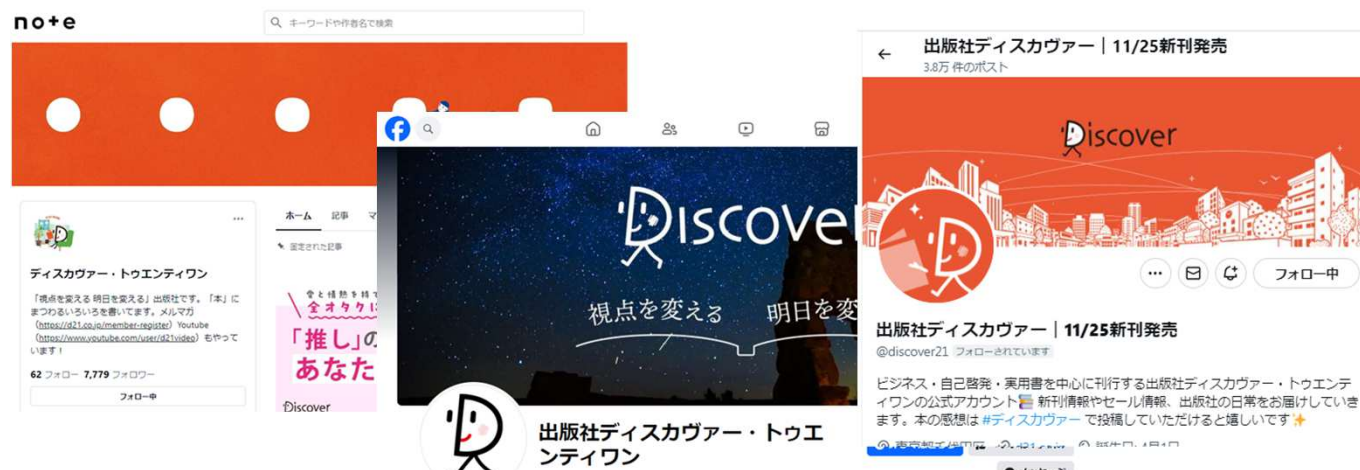
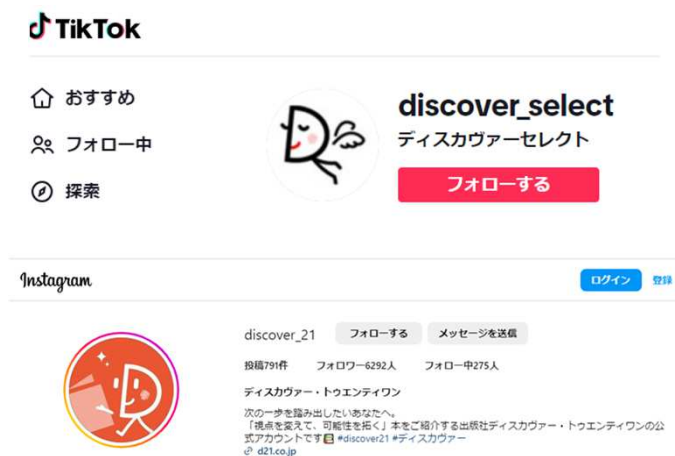
- ・誰でも作業できる
- ・電子書籍制作時間の圧縮
- ・ワークフローの可視化

自社内制作の改善により、ノウハウの蓄積と生産性の向上を実現

ディスカヴァーが
これから
取り組もうとしていることは？

オーディオブック・動画・SNSへの取り組み

- ①自社制作によるオーディオブック化書籍の点数増
- ②自社内での動画制作体制・ワークフローの充実
- ③各SNSでの公式チャンネルの運用・投稿の充実



自社開発による製作体制の向上・新技術への挑戦

- ①社内情報の共有強化（Slack等との連携アプリ開発）
- ②A I 技術活用への挑戦
- ③電子書籍制作体制の進化
- ④低コストで制作を行うための仕組み化

詳細はまだ公開できないですが、新技術へ挑戦を続けています

本日はしくみ・概要のみでしたが、

印税の管理機能や運用、
アマゾンA+、広告動画作成、
広告運用・マーケティング、

出版社自らの総合力・マーケティング力がこれ
からの時代のカギと考えています

弊社は、出版社業務のデジタル化・DX推進に寄与したいと考えています。

ご興味のある方は
ぜひ、下記へお問い合わせください

d21-bpmsales@d21.co.jp

